

5章まとめ

	必要な能力	外国語能力
1. 幼児・児童における未来型能力	なぜ未来型能力か？	2011年より全国の小学校において外国語活動が小学5・6年生に導入
	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	
2. 幼児・児童における未来型能力の育成	育成方法の提案・実施	Tag Reading Systemという音の出る絵本の活用←文字に触れながら音声を聞かせる読書は、子ども文字認識を促進し、文字と音の関連性に敏感にさせ、語彙習得にもつながると考えられる。
	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	Tag Reading Systemを使った活動参加前後を比較すると、英語を読むことに対する態度や意欲には変化が見られなかったが、英語の語彙力向上が見られた。
3. 未来型能力を指導できる指導者育成	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	
	育成方法の提案・実施	保育士養成課程における英語教育にも、将来保育士になったときに役に立つ英語すなわちEnglish for Specific Purposes(ESP)的なアプローチを取り入れる必要がある。(例:英語の歌を取り入れたり、英語で連絡帳を書く活動)
	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	<p><「子ども用の英語の歌」を取り入れた授業> 全体的に見て学習者にとって魅力的であった →保育士養成課程の英語の授業では、子ども用の英語の歌を積極的に取り上げていくことが有効だろう</p> <p><英語で連絡帳を書く授業> ・学生にはかなり難しく、また魅力的に感じていないようであった。 →基礎的な英文法の力を身につける教育が必要</p>